

■ 後を絶たない不透明な海外での腎移植（渡航腎移植） 日本移植学会、日本腎臓学会、日本透析医学会など 5 学会が共同声明

日本移植学会と日本臨床腎移植学会、日本内科学会、日本腎臓学会、日本透析医学会の 5 学会は昨年 12 月 27 日、海外移植をめぐる共同声明を出しました。

当声明および一部報道によると、臓器取引や臓器摘出のための人身取引、また貧しく弱い立場の人々から臓器を購うために海外に赴く患者など、数多くの事例が報告されています。

日本のみならず、海外のどの国においても臓器提供数は足りていません。裕福な国の人から貧困な国の人から臓器を買うために渡航し、移植を受けることが国際的に問題となっていました。この状況を受け 2008 年、日本を含む世界 65 カ国が加盟する国際移植学会は、移植臓器は自国で確保する努力するよう呼び掛けた「臓器取引と移植ツーリズムに関するイスタンブール宣言（以下イスタンブール宣言）」を採択しました。

今回の声明には、このイスタンブール宣言をすでに承認している日本移植学会の他、新たに 4 学会が同宣言に共同で承認したことを表明することで、医療関係者および患者に、あとを絶たない海外での臓器の搾取や不公平な移植は、法的・倫理的な問題が多いこと改めて周知してもらいたいという意図があります。

(参考) ▼イスタンブール宣言 20185 学会共同宣言 (<http://www.asas.or.jp/jst/news/doc/20230106.pdf>)
▼臓器取引と移植ツーリズムに関するイスタンブール宣言 (2018 年版)
(https://jsn.or.jp/medic/data/Istanbul_Declaration.2.pdf)

■ 透析患者総数の伸びは緩やか 日本透析医学会の統計調査結果が公表

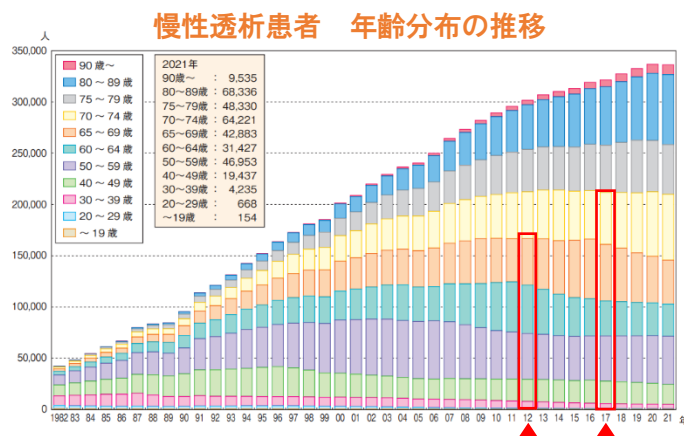
日本透析医学会は、2021 年末現在における透析患者数の調査結果「わが国の慢性透析療法の現況」を公表しました。

透析患者総数は、34 万 9700 人（前年比 0.6%増）、平均年齢は 69.67 歳（前年比 0.27 歳増）でした。患者全体の総数は増えているものの、その伸びは緩やかです。65 歳未満の患者数では 2012 年から減少し、70 歳未満では 2017 年から減少しています。2012 年に行われた透析患者数の将来予測では、2021 年をピークに患者数が減少すると予測されており、今後の動向が注目されます。

また同学会では、2019 年から過去に腎移植ドナーとして自身の腎臓を提供したことがあるか等について調査を開始しています。年間に実施される腎移植のほぼ 9 割が生体腎移植です。慢性的なドナー不足があり、高齢や高血圧、糖尿病をもつドナーからの移植が行われています。今調査では、腎移植ドナーとして腎提供ありと回答した透析患者数は 115 人おり、腎提供から透析導入までの期間の平均は、20 年 3 か月でした。

(2021 年末現在)

わが国の慢性透析療法の現況 (要約)	
慢性透析患者総数	349,700人 (2,029人増 0.6%増)
新規導入患者数	40,511人 (233人減 0.6%減)
新規導入患者の原疾患	
1 糖尿病性腎症	15,271人 (40.2%)
2 腎硬化症	6,905人 (18.2%)
3 慢性糸球体腎炎	5,394人 (14.2%)
年末患者の平均年齢	69.67歳 (0.27歳増)
新規導入患者の平均年齢	71.09歳 (0.21歳増)
最長透析歴	52年8か月



日本透析医学会調べ

(参考) ▼わが国の慢性透析療法の現況 (2021 年末調査) 日本透析医学会より